

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report

# 1

2013 No.700

通巻 700 号 記念号

## 目 次

### 3 謹賀新年

### 4 政治も情報システムも

非集中／連邦的分権を

田原文夫

個々の立場で、個々の利権を主張するか、全体の立場を配慮して全体の利益を優先させるかは、年末の選挙戦でも問われた命題である。これは、コンピュータのユーザー組織としての企業でも問われてきている基本テーゼである。いずれも、根本の議論が欠落し、全体像を見渡す知恵もないまま、目先の我欲要望を押し出してしまうことで、大きなツケがまわってきているようだ。どのような全体構想を持ち、どのような仕組み（プログラム）を作るかが構想されず、良いシステムができるわけがない。国の仕組みから考えるか、企業の仕組から考えるか、基本論理は同じである。政治家もそうだが、ビジネスマンも我が身の周辺を見直すべきである。

### 10 情報社会を考える その28

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

被災地復興が遅々として進まない中、準備された予算がまったく別の地域で消化されていることが分かった。まったくスマートでない話である。国民不在、住民不在、主役不在もトドメを刺す。システム開発現場でも同じ事が起こっている。結果として、真のユーザーニーズが分からず、仕様書が書けない事態が多発している。日本産業の再生／復興を目指す本来の姿を取り戻す年であることを願う。

### 14 新春放談

日本産業再生に向けて新政権に期待すること

黒坂欣司

近隣諸国の挑発行為は、一昔前なら、国家間の戦闘行為になっていても不思議がないほどである。その挑発ぶりは、交戦権を不明確なままの我が国に対して、あまりにも露骨かつ容赦がない。バブル経済の崩壊後の低成長経済下にある我が国には大きな脅威である。

この脅威を拭い去るためにも、日本産業の再生は必須である。

## 20 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM 構築が必要か その 23

水田 浩

東北の復興費は 2011 年度の第 1～3 次補正予算と 2012 年度の復興特会予算案の合計で 18 兆円を超え、当初 5 年間で見込んだ 19 兆円に迫る。この復興費で行われる事業は、全自治体が 2000 年代に導入を決めた建設建設 CALS を、国交省の電子入札と電子納品のガイドラインで実施される。

## 25 連載 アーキテクチャ論 (21)

アーキテクチャプリンシプルの次元

山本修一郎

今回は、Greefhorst と Proper によるエンタープライズアーキテクチャプリンシプル (Architecture Principle: AP) の次元[1]について解説しよう。前回は述べたように、エンタープライズアーキテクチャプリンシプルでは、エンタープライズアーキテクチャが満たすべき意図を定性的に記述する。したがって、どのように記述すべきかを規定するための観点が重要になる。直感的に言えば、アーキテクチャプリンシプルの記述レベルの観点を示す軸が次元である。なお、以下では Greefhorst と Proper に従って、エンタープライズアーキテクチャプリンシプルを、短縮してアーキテクチャプリンシプルとしている。

## 34 セキュリティ対策で注目の「情報を持たない」作戦

aism

セキュリティ対策で企業が守るべきは「情報」である。これは普通の論理だと言える。昨今の漏洩事件では、個人に関わるセンシティブ情報の漏えいが大きく取り沙汰される。情報漏えいされた被害者以上に、漏えい事件を起こした企業が、その社会的責任を問われ、大きなダメージを受ける風潮にある。それだけに個人情報保有する企業は非常にナーバスになっている。そこで今注目されているのが「情報を持たない」というセキュリティ対策である。今日の情報社会にあって「情報を持たない」が究極のセキュリティ対策だというのは皮肉な話だが、是非とも、セキュリティリスクサーベイ後の施策として検討されることをおススメする次第である。

## 37 ものの造れる日本再生に向けて その 16

第二／第三の創業へ

Dr.ベスト

### 第 16 回 スキルズインベントリを基盤とする

#### 人的資源管理 (HRM) システムの構築 (2)

1970 年代のオイルショック後の 1980 年代は「激動の時代」と予測されたが、実は、「ジャパンアズ No1=No1 としてのニッポン」という、今にして思えば黄金期だった。その黄金の夢が一気に醒めたのが、1991 年のバブル崩壊という悪夢からの出発だった。そして

それは、さらに厳しい姿勢で日本全体の産業界のリストラクチャリングに挑戦する時代の幕開きだった。まさに温故知新である。新興国にはない一企業の枠を超えたリストラクチャリングの歴史をひもといてみよう。鉄鋼、造船、エンジニアリング、自動車、電気・電子業界の動向を追いながら、これからの日本再生に向けて踏み込んだ展望をしてみたい。

#### 4 2 続インテリジェンスへのいざない 36

失われた 20 年を取り戻す日本の「反応する力」に期待 今井 武

国民の新しい選択で、再度の政権交代にもとづく新政権が誕生した。何の政策実行をしないうちに、金融市場は反応し動き出した。何年かぶりの東証の平均株価が 1 万円台を回復した。これを単なる御祝儀相場ではなく、日本産業の再生を伴ったものとした。バブル崩壊後の閉塞感を一気に打ち破り、失われた 20 年を取り戻すキッカケとなって欲しいものだ。そのためには、積極果敢な情報処理活動が必須である。諸賢の視点の拡大と行動能力に期待が集まる。

#### 4 5 一味違うウェブ検索

第三十話 資料のチェック⑦ 分類に注意する ぐうのうえぶへい

我々が必要としているすべてのものは、何らかの形で分類されている。分類は統計資料の基礎になっており、異なるカテゴリーに分類にされれば、世の中の見え方が変わるだけでなく、実際のビジネスや普段の生活への影響も、変わってしまう。

実際の分類は、諸般の事情に左右され、また、しばしば変更される。資料を読む場合には、この点に十分注意を払い、実態を正しく把握するように努めてほしい。

#### 4 7 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまチヒロ

☆☆

#### WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなされたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

☆☆

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシントリニティ研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリニティ研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最新のインターネット防衛戦術心得
第五章 aismの2002年度の事業計画	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報セキュリティ対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2003年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	第十九章
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	第二十章

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**『いざ！というときの(得)広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開発フル稼働とバリエーション
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番稼働日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安眠薬と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)